

JHFREPORT



第7回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテスト応募作品 黒藤敏雄「富士に向かって」

2021年度JHF事業計画と予算

スカイスポーツもコロナ禍の大きな影響を受け、さまざまなイベントが中止や延期となるなか、2021年度が始まりました。

公益社団法人として11年目のJHFは、2021年度事業計画と予算を次のように策定しました。

事業方針

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて国境を超えた移動が困難になり国際大会が中止になるな

ど、ハンググライダー、パラグライダー活動ともに低調に推移しました。2021年度はワクチン普及に伴って次第に活発になることが期待されます。なおフライヤー会員減少のため、2021年4月1日にフライヤー会費を年額5,000円から7,000円に値上げしました。

今後も教本作成や安全セミナーなどを通じて事故の防止を図っていきます。また、フライヤー自身のケガを保障するJHF総合保障制度の加入者の拡大を図ります。

フライヤー人口は少しずつ減少が続いています。重大事故0と新会員獲得に取り組んでいきます。

事業の具体的内容

PG=パラグライディング

HG=ハンググライディング

MPG=モーターパラグライディング

XC=クロスカントリー

【理事会・事務局の事業】

1 全国のフライヤーの実態把握と安

スポーツくじ



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

全対策

- 2 愛好者増加の推進
- 3 ハング・パラグライディングのイメージ向上・宣伝告知
- 4 委員会の主体的活動のバックアップ
- 5 ボランティア制度の活用促進
- 6 フライト中の情報交換を可能にする無線機の普及
- 7 フライヤーのための損害保険の告知と普及
- 8 スクールのための施設賠償・損害保険の告知と普及
- 9 第三者賠償責任保険の付保継続
- 10 JHF白書の編纂
- 11 寄付・助成金獲得への取り組み
- 12 その他定款の定める管轄事項
- 13 オンライン手続き、キャッシュレス決済の研究

【常設委員会・事務局（広報出版）の事業】

●安全性委員会

- 1 事故情報の収集と管理
- 2 事故調査活動
- 3 機体登録制度の推進
- 4 PG・HG・MPGパイロット安全セミナーの推進（教員・スクール事業委員会と合同）
- 5 海外情報収集と告知（DHV infoの翻訳など）
- 6 セーフティーノーツの管理
- 7 ハング機体整備制度・現状調査
- 8 委員会ホームページの管理
- 9 注意喚起情報の発信（JHFウェブサイトより随時）
- 10 チェック5タグの装着を推進（安全注意喚起用）
- 11 パイロットセミナー教材の充実（PPT教材の作成等）

●教員・スクール事業委員会

- 1 PG・HG・MPGパイロット安全セミナーの開催
- 2 教員実技検定会
- 3 教員学科集合検定会
- 4 上級タンデム技能証検定会（年間予定は2回＋再検定者対象を1回。希望者が集まれば別途開催）
- 5 教員助教員更新講習会
- 6 レスキューパラシュートトリパック認定証更新講習会
- 7 レスキューパラシュートトリパック認定証検定会

- 8 PG教本改訂版の発行（2020年度内発行）PG技能証規程もこれに合わせて改定
- 9 HG教本の発行（PG教本に続いて発行。2021年度初頭）
- 10 スクール登録制度の見直し
- 11 学科試験問題の見直し（PG、HG、MPG）
- 12 上級タンデムテキストの改訂と検定細則の見直し
- 13 上級タンデム技能証の更新（2022年度）に備えた体制準備
- 14 教員の資質向上の支援

●HG競技委員会

- 1 ルールブックの改定
- 2 HGシリーズの運営
- 3 フライトコンテストの運営
- 4 委員会ホームページの運営
- 5 クラスI日本選手権の開催（2月の紀の川開催が中止となったため、代替開催を調整中）
- 6 クラスV日本選手権の開催（2021年4月29日～5月2日、茨城県・足尾）
- 7 クラスI & V世界選手権（北マケドニア、クルシェボ 7月18日～30日）に選手派遣
- 8 各種大会の公認および後援申請に対する審議および承認
- 9 SNSを活用したタイムリーな情報発信
- 10 公式立会人制度の見直しと、バッジとメダルの授与ルール作り

●PG競技委員会

- 1 ルールブックの改定
- 2 ウェブ事務局／ホームページ管理
- 3 Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、AJリーグ管理
- 4 J2リーグおよびアキュラシーリーグの活性化・支援
- 5 XC日本選手権の開催（2021年5月1日～5日、和歌山県・紀の川）
- 6 アキュラシー日本選手権の開催（時期、開催地未定）
- 7 第17回XC世界選手権（フランス5月23日～6月5日）に選手派遣（注：コロナの影響により、開催の最終決定は3月15日に公表予定）
- 8 第12回アキュラシー世界選手権（北マケドニア 10月7日～16日）に選手派遣

●制度委員会

- 1 JHFにかかわる制度の定款、規約、規程、規則などの文書管理
 - 1）理事会諮問事項への答申等
 - 2）JHFウェブ上の総覧整備（規程改正およびFAI部分）
 - 3）FAI技能記章、公式立会人に関する事項の研究
- 2 他委員会および事務局との連携
 - 1）スクール、クラブ、エリア登録制度改正

●補助動力委員会

- 1 MPG事故情報管理
- 2 MPGパイロット安全セミナー開催
- 3 JPMAと共同で今年も開催（大会・安全セミナーなど）9月か10月頃 関東圏内（候補地・千葉県九十九里）
- 4 委員会ホームページ管理

●ハングパラ振興委員会

- 1 今飛んでいる人が飛び続けられる環境作りの検討（継続）
 - －フライヤーズボイスの定期更新体制の運用と継続的見直し
 - －飛ぶのを止めてしまった方の状況分析（継続）
 - －学生が卒業に伴いやめてしまう問題の分析と対応策検討（学連と連携）
 - －家族向けパンフレット「ご家族の皆様へ（仮称）」継続的に更新
 - －JHFレポートの活用（特集記事など）（継続）
 - －SNS（Facebook等）を活用した情報発信の検討（継続）
 - －「新しい生活様式」におけるスカイスポーツの認知度向上の試み
- 2 体験会等イベントへの協力
 - －「新しい生活様式」におけるイベントの模索
- 3 外部組織との連携
 - －VR体験に関する大学研究室との協力体制維持

●役員選任実行委員会

- 1 通常総会における役員選任の準備と実施
- 2 役員選任規約の改定検討

●事務局（広報出版活動）

- 1 JHFウェブサイトの運営（スクール紹介サイトを含む）
- 2 JHFレポートの発行

- 3 関連媒体への情報提供（HG・PG 関連雑誌に情報を提供）
- 4 一般媒体などへの情報提供（HG・PGの紹介、イベントやエリアの紹介など）
- 5 スクールなどへの情報提供
- 6 日本のHG・PGの歴史編纂事業
- 7 スクール・エリア登録の推進
- 8 ITシステムの更新および効率化

【その他の事業】

上記のほか、この法人の目的達成に必要な下記の事業を行う

- 1 技術に関する事業
- 2 教育に関する事業
- 3 安全に関する事業
- 4 競技に関する事業
- 5 その他普及啓蒙に関する事業

*補足：今年5月23日から6月5日までフランスで開催を予定していた第17回パラグライディングXC世界選手権は延期となりました。具体的な日程はまだ発表されていません。

JHFフライヤー会員年会費を変更しました

JHFレポート231号、232号でお知らせしたとおり、2021年4月1日にJHFフライヤー会員年会費を5,000円から7,000円に変更しました。

4月1日以降に更新時期を迎えるフライヤー会員の方、4月1日以降に新規でご登録の方は、1年会費7,000円、3年会費21,000円に変わりました（自動振替は手数料無料、ゆうちょ銀行・郵便局・コンビニエンスストアでお振り込みの場合は別途手数料をご負担願います）。

システムの切り替えのため、会費の払込票も変わりました。2021年1月31日までにお送りした更新払込票は、4月1日以降はご利用いただけ

ませんので、ご注意ください。今後更新の方で、旧払込票や銀行振り込み等により旧会費でお支払いの場合は、新会費との差額を改めてお振り込みくださるようお願いいたします。

会費を自動振替にされている方も2021年4月1日から新会費になりました。更新時に残高不足や口座不備等でお引き落としができなかった場合は、お振り込みをお願いすることになります。お引き落とし日までに口座残高等のご確認をお願いします。

お問い合わせは、JHF事務局までメールでお願いします（事務局業務の効率化のためご理解ください）。
info@jhfhangpara.or.jp

予算

2021年度予算の内訳を下のグラフにしました。

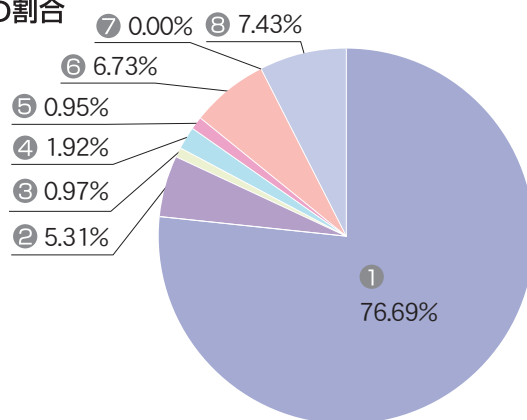
JHFの活動を支えているのは主に会

員の皆さんの会費や各種申請料などです。これらの収入がどのように2021年度のJHF事業に活かされるのかをご覧ください。

収 入 （単位:円）

① 会費等	39,877,500
② 技能証の発行に基づく収入	2,762,000
③ 競技に関する収入	502,000
④ 教本等の頒布に伴う収入	1,000,000
⑤ 検定会参加費	493,000
⑥ 補助金	3,500,000
⑦ 機体登録費	0
⑧ その他	3,862,000
前期繰越金	0
合 計	51,996,500

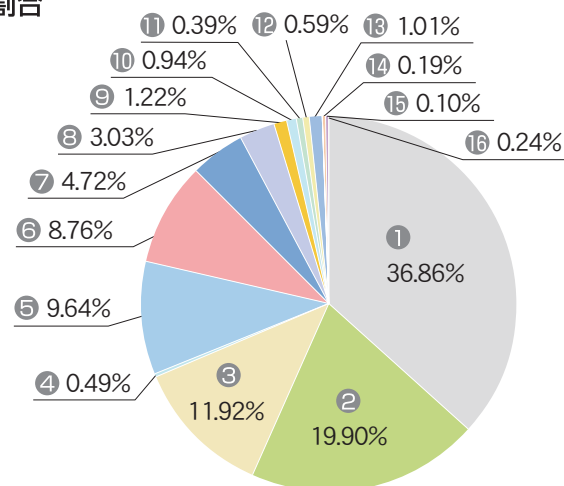
収入の割合



支 出 （単位:円）

① 会員サービスのために	18,733,000
② JHFの維持運営のために	10,113,000
③ 都道府県連盟の補助のために	6,060,000
④ 公益事業の推進のために	248,000
⑤ 世界選手権、アジア選手権や検定会のための積立	4,900,000
⑥ 広報・普及活動のために	4,453,000
⑦ 日本選手権や国体デモスポのために	2,400,000
⑧ 競技のために	1,540,000
⑨ よりよい教習環境のために	620,000
⑩ 委員会活動のために	477,000
⑪ 補助動力のために	200,000
⑫ 学生の補助のために	300,000
⑬ 事故調査や安全のために	515,000
⑭ 海外との交流のために	98,000
⑮ 制度のために	50,000
⑯ 総会のために	120,000
合 計	50,827,000

支出の割合



JHF理事・監事へのお誘い

JHF役員選任実行委員会 委員長 鈴木 由路

去る3月19日(金)、今年の役員選任公示がされました。2021年度から2022年度にかけての、皆さんの代表であるJHF理事・監事を選ぶ重要な公示です。

一般フ라이어の皆さん全員に、理事・監事に立候補する権利があります。自由に空を飛ぶ権利を守るJHFの取り組みにご賛同いただける方の立候補をお願いします。立候補にあたっては、所属(住民票登録地)あるいは活動地域のJHF正会員(都道府県連盟)による推薦が必要です。

今までの理事会は、主にJHF事務局に集まっての開催が多かったですが、昨年からのコロナ禍の影響もあり、リモートによる活動も多くなっています。

この結果、理事会活動に短時間での参加や地方からの参加がし易くなっています。

フ라이어会員で首都圏以外に在住の方・幅広い年齢の方・女性・様々な社会経験をお持ちの方など、多様な方に理事会活動に参加いただきたく考えています。

今年の立候補手続きは、従来の手続きとは異なり、メール等の電磁的手段により行うことにし、ペーパーレス化を図っています。応募の締め切りは4月26日(月)です。

役員選任公示特設ページはこちら

https://jhf.hangpara.or.jp/election/file/2021_yakuin_sennin_top.html

各正会員の連絡先はこちら

<https://jhf.hangpara.or.jp/office/kenren.html>

JHFの動き

6月17日に対面+オンラインでJHF定時総会を開催の予定です

6月17日(木)、東京都内において2021年度JHF定時総会(通常総会)を開催します。

報告事項は、2020年度の事業報告ならびに決算報告・監査報告、2021年度の事業計画と収支予算。決議事項は、貸借対照表及び損益計算表(正味財産増減計算書)とJHF役員選任の承認を予定しています。

今回は、新型コロナウイルス対策により、ハイブリッド出席型(対面+オンライン)総会の準備を進めています。また、感染予防のため傍聴は不可とさせていただきます。

上級タンデム検定会を各地で開催しています

上級タンデム技能証の検定会を各地で開催しています。今年度の予定は以下のとおりです。

●7月3日(土) 予備日7月4日(日)
会場：スカイ朝霧

※今回は再検定者のみが対象です。

●11月13日(土)・14日(日) 予備日11月15日(月) 会場：スカイ朝霧

●12月4日(土)・5日(日) 予備日12月6日(月) 会場：紀の川スカイパーク

これ以外の場所・日程でも、受検希望者が10名以上集まれば開催を検討します。受検をご希望の方はJHF事務局にお知らせください。

教員検定・集合学科検定会を一部リモートで実施しました

2月27日(土)・28日(日)に2020年度教員検定・集合学科検定会を開催、教員に必要な知識や技術、心構えの研修と、教習実技、学科検定を行いました(実技検定は全国の教員検定員のもとで受検)。

今回は新型コロナウイルス対策として、東京ではなく2箇所(茨城県、岡山県)に分散し、一部はリモート会議システムにて実施しました。

7名が受検し、そのうち実技検定も合格済みの1名、川波義宜さん(千葉県)がパラグライディング教員として活動を開始します。



岡山県での教員検定・集合学科検定会。

PG教本改訂版の頒布を開始 HG教本改訂版も近日発行予定です

JHFパラグライディング教本改訂版は、予定していた発行時期が遅れ在庫がない状況になり、ご迷惑をおかけしましたが、3月末より頒布を開始しました。A4サイズ、全ページカラー。パラグライディングの基礎知識、A級パイロット証からクロスカントリー証

まで各課程の実技と学科について、わかりやすく解説。既にフライトを楽しんでいる方にも読んでいただきたい内容です。ご注文の方法は、本号16ページをご覧ください。

ハンググライディング教本改訂版の発行も間近です。頒布詳細が決まり次第、JHFウェブサイトでご案内します。

パラグライディング技能証規程改定 5月1日発効です

パラグライディング教本改訂版では教習内容が一部更新され、それに合わせパラグライディング技能証規程が改定になります。現行の技能証規程で練習されている皆さんへの影響を考慮して周知期間を設け、新技能証規程は2021年5月1日の発効になります。

速報：JHF-PG国内記録更新 中目みどり、200km超え！

4月3日(土)・4日(日)に茨城県nasa足尾山で開催された「スカイグランプリ in ASHIO」で、パラグライディング国内記録(JHF)が更新されました。

競技初日、なんと180km先の国見を目指すストレートゴールタスクが組まれ、実に14人がゴールメイク。そのひとり、中目みどり選手はこのチャンスを逃さず、夕方ながらゴール後にさらに距離を伸ばし、204.09km飛行。国内初の200km超え！日本パラグライディング史に刻まれるフライトを成し遂げました。詳細は次号で。

JHF総合保障制度2021年度募集スタート

フライヤー自身の怪我などに備える保険、「JHF総合保障制度」の今年度募集が始まりました。以下は東京海上日動火災保険からJHFフライヤー会員の皆様へのお知らせです。

東日本大震災から10年が経ち、熊本地震が発生してから5年が経ちましたが、甚大な多くの被害をもたらしたことは記憶に新しいです。被災された地域の皆様、そのご家族、関係者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

また、復興に向けご尽力されている関係の皆様方に敬意を表するとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

『JHF 総合保障制度』とは

任意でご加入いただくフライヤーのための傷害保険です。搭乗中はもちろん、お仕事でも補償されます。また、地震、噴火またはこれらによる津波等の災害によるおケガも対象となります。

ご注意くださいのですが、フライヤー登録をすると自動加入されるのは第三者賠償責任保険です。本保障制度はあくまでも任意でご加入いただく必要がございます。

フライヤー登録と同時に加入する保険（第三者賠償保険）では、ご自身のおケガは補償されません！

◆2021年度募集がスタートします

今年度で16年目を迎える本保障制度は、2021年3月1日現在、約831名の会員の皆様にご加入いただいております。

まずは、引き続き安全なフライトをお心がけいただき、事故なくおケガなくフライトを楽しんでいただくことが大切ですが、**万が一の時のための支えとして、本保障制度をご利用いただけますようお願い申し上げます。**

◆JHF総合保障制度の特徴

- ・国内外を問わずパラグライダー（含むモーターパラグライダー）搭乗中はもとより、お仕事や日常生活のおケガ、および遭難の際にかかった捜索費用等の補償を致します。
- ・地震、噴火またはこれらによる津波での傷害についても補償対象となります（この場合は救済者費用保険金につきましては対象となりませんのでご注意ください）。
- ・団体割引5%が適用されますので、保険料が割安です。

◆現在ご加入の皆様へ

更新のご案内を3月下旬に郵送させていただきます。大切なお知らせで

ですので、書類到着後、必ず内容のご確認をお願い致します。その上で、以下ご対応をお願い致します。

- ☐プランに変更あり
→期日までに訂正の上ご返送ください。
- ☐プランに変更なし
→自動継続となります。ご返送は不要です。
- ☐ご解約
→必ずご返送ください。
- ☐引落口座変更
→専用書類がございます。下記問合せ先までご連絡ください。

◆新規ご加入の皆様へ

ご加入をご希望される場合は、このJHFレポート233号に同封のパンフレット等をよくお読みいただきお申込みください。

※締切厳守…5月7日（金）必着

【保険に関するお問合せ先】

東京海上日動火災保険代理店
株式会社東京海上日動パートナーズ
TOKIO 池袋支店 池袋支社
〒170-6030
東京都豊島区東池袋3-1-1
サンシャイン60ビル30階
TEL.03-6907-4622
(平日9:00~17:00 土日祝除く)
FAX.03-6907-4623
Email: info.ikebukuro@tnpgrp.jp

県 連 だ よ り

■会員メーリングリストにご参加を 大阪府フライヤー連盟

大阪府は、フライヤー人口は多い方ですが、エリア、スクールがなかったため、会員の活動の場所が大阪府でなく、近隣府県に散らばっています。総会を開いても3年連続で会長以外の参加者が0だったということもあり、その後もそれに近い状態が続いたため、数年前より大阪府連の会員専用のメーリングリストを開設し、事業内容やそれについての意見等を共有できるようにしています。

しかし、そのメーリングリスト自体を知らなかったとの会員からの声があ

り、この誌面を使って案内させていただきました。

メーリングリストへの参加方法

「JHF大阪府フライヤー連盟」のホームページからお願いします。
<http://jhf-osaka.main.jp/hp/>
加入にはJHFフライヤー登録No.が必要で、ご意見をいただく際は実名のみとなっています。

参考までに、今までの大阪府連独自の事業を挙げます。

- HG、PG、世界選代表選手への応援金（大阪府連会員のみ）
- HGクロスカントリー記録樹立お祝金（大阪府連会員へ）

●大阪府内の小学校、中学校、高校の修学旅行でのパラグライダー体験対しての補助（開催場所は問わない）

- 大阪府フライヤーフェスティバル
- 大阪府連のホームページ、メーリングリスト開設：会員の横堀さんの尽力（ボランティア）によるもの

これらの事業は、「これから始める方から、上級者まで偏らない事業をすべき」との声から決めたものです。

これからも会員の皆様の幅広い意見をお願いいたします。

大阪府フライヤー連盟
理事長 片岡義夫

ハーネスのベルト締め忘れを皆無に

JHF安全性委員会 委員長 竹村 治雄

新しい年度となり、大学のサークルでは新入生への勧誘が始まっていると思います。スカイスポーツの楽しさを伝えて一人でも多く私たちの仲間が誕生することを、また安全で楽しい体験を共有できることを願います。

セルフ&クロス

プレフライトチェックを確実に

前号の記事で、2020年の重大事故5件のうち2件がレッグベルト締め忘れによるものであると報告しましたが、今年3月にも、レッグベルト締め忘れによる重大事故が発生しました。

安全性委員会では、機会あるごとにプレフライトチェック（セルフチェック、クロスチェック）の徹底をお願いしていたにも関わらず、事故が起きていることを重大視しています。今一度この問題について考察してみたいと思います。

レッグベルトの締め忘れは、第一義的には当該パイロットのヒューマンエラーによるものであることは、間違いありません。しかしながら、それで済ましてよいのでしょうか？ きちんとチェックをすれば防げる事故、たとえばパイロットがレッグベルトを締め忘れ

ても、それを発見できる仕組みを構築する必要があります。

前号でもシミュレーターの事前体験等についてお話ししましたが、クロスチェックを確実にする方法について今回は検討します。

例えば、エリアにテイクオフディレクターがいる場合は、ディレクターが必ず一人一人にプレフライトチェックの完了を確認するか、その状態を無線で通知するなどの指示を与えることは有効です。クラブエリアのような場所でも、お互いに声を掛け合うように習慣づけることは必須です。

極端な話、あなたがビジターとして

どこかの別のエリアにフライトに行っていて、そこでクロスチェックなしでテイクオフしようとしている人がいたら、必ず「レッグベルトOKですか？」と聞きましょう。

最近のポッドハーネスは、ゲットアップ式のベルトの場合でもチェストベルトのバックルを閉じないとポッドを閉じることができないような仕組みになっていますが、まだそのような仕組みがないポッドハーネスをお使いのフライヤーは、特に注意が必要です。必ずセルフチェック、クロスチェックをお願いします。

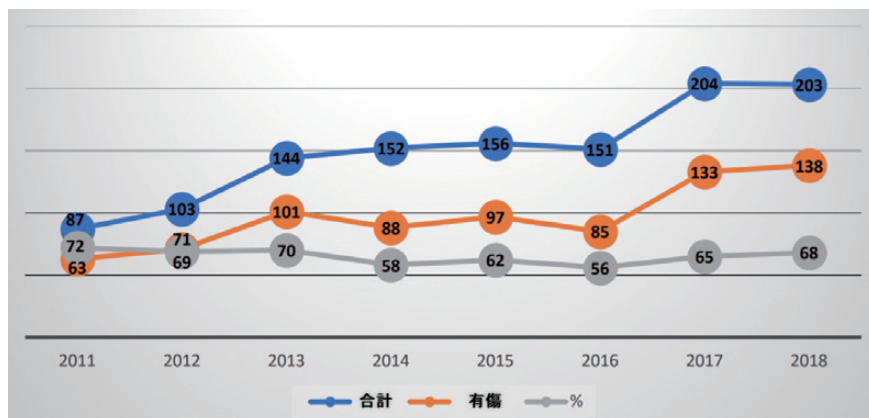


図1 BHPAの事故報告件数（合計、有傷、比率）

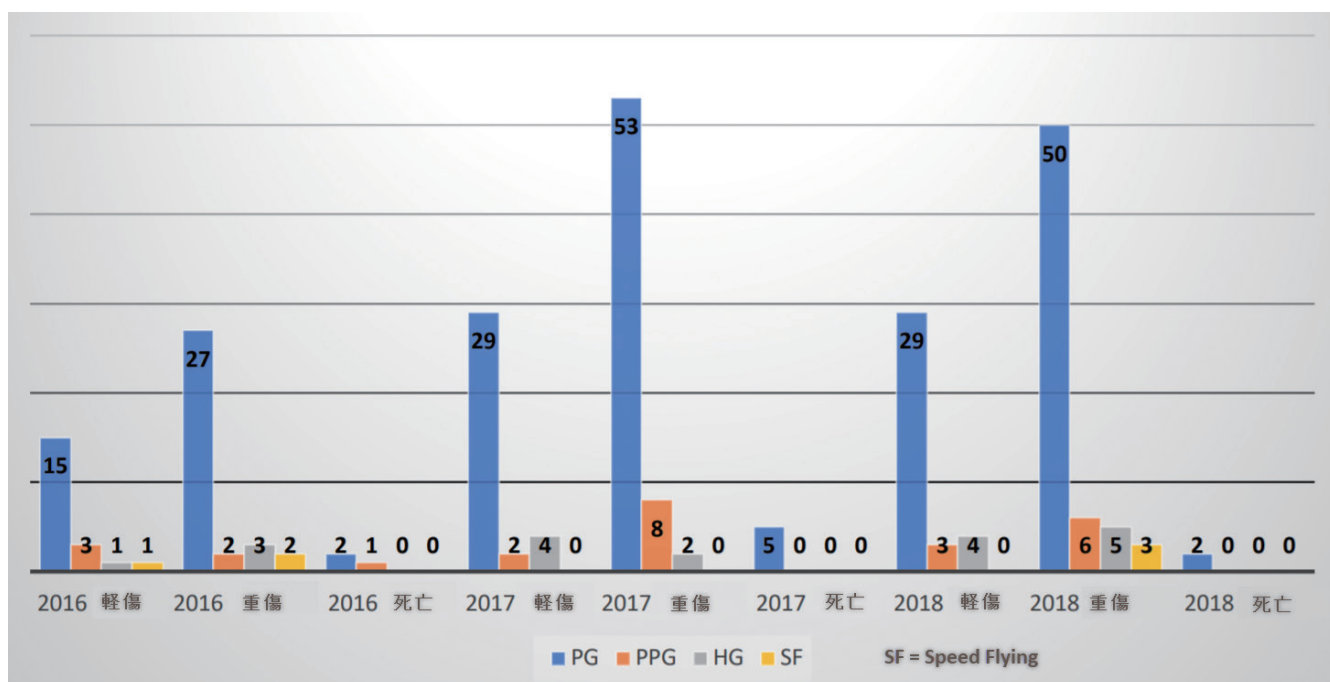


図2 BHPAの有傷事故の内訳（2016-2018年）

事故報告書・事故目撃情報・インシデントレポートの提出を！

事故情報の分析をし、それにより新たな事故を防ぐためのヒントを得て、フライヤー間で共有することは、このスポーツの安全性を高めるために重要です。JHFでは、教員は事故に関係した場合に報告義務がありますが、一般のフライヤー会員には、報告義務は課せられていません。一般の方やフライヤー会員が目撃情報やインシデントレポートを提出できるリンクはJHF WEBの会員ページに設置していますが、残念ながら2020年の報告は3件のみでした。

ヨーロッパでは各国ごとの連盟が協力して統一的なレポートシステムを運用していることは以前も紹介しましたが、同時にこのレポートに対する分析もいくつかの連盟で行われて公表されています。報告件数と重大事故、重傷事故の件数等について、今回はBHPA（イギリスの連盟）の場合をご紹介します。

イギリスの連盟ではパラのフライ

ヤーが約6000名、ハングのフライヤーが約1000名会員登録しています。また、会員にはインシデントレベルからレポートの提出義務が課せられています。

BHPAのWEBページには事故報告の分析レポートも掲載されています。それによる、2011年から2018年の報告件数、有傷事故件数、その割合を図1に示します。また、2016年から2018年の有傷事故の内訳は図2のようになります。BHPAの登録フライヤーはパラグライダーで6000名、ハンググライダーで1000名程度ですので、ハングはJHFより多く、パラグライダーはJHFとはほぼ同等と考えられます。

個々で注目したいのは、事故報告件数は日本より多いですが、重大事故数は日本より少ない状態であるということです。重大事故については、事故報道等もあり完全に把握できますが、重傷・軽傷事故は事故報告で報告されたもののみカウントされるため、このような数となっていると思われます。

もちろん、重大事故の件数だけを比

較することはあまり意味がありませんが、日本の事故と比較すると、レッグベルトの締め忘れと着水による事故の比率が日本では非常に高くなっています。これらの事故は、事前のチェックを行えば防げる事故です。

そのほかの傾向としては、フライヤー人口が高齢化している日本では、高齢者の事故が目立つ状況です。プレフライトチェックや水上フライトでフロートの装着などを確実にものとすることで、重大事故は大きく減らせる可能性があります。フライヤーのより一層の協力をお願いします。今後、安全性委員会としても、より正確な数を把握する方法について検討していきたいと考えています。

新しいパラグライダーの教本が発行され、より安全教育に重点を置いた内容となっています。すでにパイロット証やクロスカントリー証をお持ちの方も今一度内容を確認されて、自身の安全に対する備えを再確認されることをお勧めします。

プレフライトチェックもフライトのうち

プレフライトチェック、つまり飛行前点検ですが、このチェックの段階で既にフライトは始まっていると言っていいでしょう。

ビギナーの頃からチェックの手順を頭と体にしっかりと刻み、いつでもどこでも誰と一緒にでも、きちんとチェックをすることを習慣にする、そこから安全で楽しいフライトが始まります。

以下は、パラグライディング教本改訂版、A級技能証課程からの抜粋です。ご自身の手順を再確認し、またレッグベルトを締め忘れたらどうなるのか、考えてみてください。

プレフライトチェックの手順 (足元から上へ)

- ①足元（靴ひもの弛みはないか／ラインが引っ掛かっていないか）
- ②アクセルフットバー（アクセルラインを接続したか）
- ③レッグベルト（バックルを締めたか）
- ④チェストベルト（バックルを締めたか）

- ⑤レスキューパラシュート（ハンドルや閉鎖ピンの状態に問題はないか）
- ⑥カラビナ（ロックしたか）
- ⑦ライザー（ねじれなどない状態で接続したか）
- ⑧無線機（アンテナ、チャンネル、送受信、ロックなどに問題はないか）
- ⑨ヘルメット（あごひもを締めたか）
- ⑩ライン（からんでいないか）
- ⑪キャノピー（正しくセットしたか）
- ⑫周囲（風の向きや強さはフライトに適しているか／テイクオフ場付近に他機が飛んでいないか）

絶対にレッグベルトを締め忘れない！

ハーネスのレッグベルト締め忘れによる死亡事故が何件も起きています。右の写真はレッグベルトを締めずにシミュレーターにぶら下がったところです。パイロットの体はハーネスからずり落ち、今にも落下しそうです。この後、パイロットは逆上がりの要領でハーネスに座ることができましたが、実際に締め忘れてテイクオフした場

合、締め忘れを意識していないパイロットがとっさに落下を防ぐことは難しいでしょう。

レッグベルトはパイロットの命綱です。絶対に締め忘れないことを肝に銘じて、安全飛行を続けましょう。



2021年CIVL総会レポート

国際航空連盟（FAI）の国際ハンググライディング・パラグライディング委員会（CIVL）の総会が今年はオンラインで開催され、日本を代表するデレゲート（委員）として岡芳樹さんが、牟田園明さんがオルタネート（副委員）として参加しました。以下はお二人からの報告です。

PG=パラグライディング

HG=ハンググライディング

XC=クロスカントリー

日程：各部会 2021年2月1日～3日
15時～17時（UTC+1）

総会 2021年2月4日～7日
15時～17時（UTC+1）

場所：全てリモート（ZOOMミーティング）

総会参加国：

オーストラリア、オーストリア、ブラジル、ブルガリア、中華人民共和国、クロアチア、デンマーク、スペイン、フィンランド、フランス、英国、ドイツ、香港、ハンガリー、インド、イラン、イタリア、カザフスタン、ラトビア、リトアニア、マレーシア、北マケドニア、モンゴル、オランダ、ノルウェー、フィリピン、ポーランド、ポルトガル、ロシア、スロベニア、セルビア、スイス、スウェーデン、タイ、台湾、トルコ、米国。委任ニュージーランド→オーストラリア

[FAI関連]

逼迫した財政を立て直すため、職員を10人から7人に減らし、あらゆる無駄を省いてコストカットを実現している。2020年の総会で会長が交代。引き続きFAIの原点である、大会、記録、表彰に焦点を当て、各委員会（ASC）、NAC、外郭団体との緊密なコミュニケーションを通してスカイスポーツをさらに発展させるよう努力する。

[CIVL関連]

■コロナの影響でほとんどの大会がキャンセルあるいは延期となった。2020年の公認大会は130であった（2019年は326）。唯一開催できたカテゴリー1大会はブラジルで開催された第4回PGXCパンアメリカン選手権。

■2015年に設立されたAFA（AirSports Federation of Asia、FAI承認団体、FAIのアジアの会員がメンバーとなっている）は、PGアキュラシーリーグを開催してゆく方針でCIVLのサポートを打診してきているので、ルール作成を含めサポートしてゆく。

■CIVLの財政は、2020年はコロナの影響で収入が減少したがソフトウェア関連の支出がほぼ予定通りとなり、収支は約500万円のマイナス。2021年もコロナによりほぼ同じような傾向との予測で、収支は約460万円のマイナス試算。2022年にはコロナは収束していると予想し、このスポーツを発展させ、かつパイロットに資するための支出は行うとして収支は約370万円のマイナスと試算。それでもこれまでの繰り越し資産（2020年末時点で約2700万円）があるので、財政的に破綻することはないが、毎年バランスが赤字というわけにもいかず、公認料の値上げも検討しなければならないであろう。

[HG/PG関連]

■ブルガリアからの提案

〈Annexe33b〉：主に安全性を高めるために、ターンポイント（特にESS）にシリンダー半径だけでなくクリアーするための最低高度を設定する提案。このような方式は実機のグライダーではすでに採用されているとのこと。コンセプトは全会一致で賛同されたが、実際の運用にあたっては種々の問題があるので、作業部会を設置して協議し、今年の大会で試行して問題を解決し、来年の総会で再提案することとなった。

■ポーランドからの提案

〈Annexe33d〉：FAI公認大会におけるトラックログをCIVLのサーバーに保存し、分析するために閲覧できるようにする提案。ログを分析するようなアプリを作成することは、それなりに費用と時間がかかるので、それはせずただ単にログを保存するだけとして、賛成多数で承認された。FSではスコアラがログをCIVL事務局に送る必要があるが、Air Score（後述するFSの後継ソフト）はクラウドサービスのため、自動的にログがCIVLサーバー上

に保存される。

■FSの後継となるAir Scoreはほぼ完成しており、実際にイタリアの大会では使用されている。これまでいくつかの大会でのFSとAir Scoreの結果を比較しているが、差はわずか（1000点満点で1、2点程度）。今後広汎に比較精査する予定。スケジュールとしては2月中にFAIのサーバーに公開され（無料）、バグを修正して5月1日から稼働させる予定。

■ソフトウェア作業部会からの提案

〈Annexe30〉：一人の選手が複数のペナルティを犯した（ボーナスを得た）場合に、どの順序でペナルティを課す（ボーナスを与える）（計算する）のか。
*HGでは1番目にジャンプザガン（フライング）、2番目にパーセントペナルティ（ボーナス）、3番目に点数ペナルティ（ボーナス）

*PGでは1番目にパーセントペナルティ（ボーナス）、2番目に点数ペナルティ（ボーナス）

（これは、変更ではなく、ただ単に明確に文章に市ただけ。）

[HGXC関連]

■2021年クラス1世界選手権：Krushevo、北マケドニア。クラス5と併催に変更。全体での参加選手枠は130人（クラス1：105人、クラス5：25人）。チームサイズはクラス1：6人、クラス5：3人。開催の最終的な判断は5月1日に下される。

■2023年クラス1世界選手権：Ager（バルセロナの北西約140km）、スペイン。本戦2023年7月16日～29日（テスト大会2022年7月16日～23日）。エントリー費500ユーロ（選手）、200ユーロ（役員）

[PGXC関連]

■ポルトガルによる提案

〈Annexe33c〉：直線距離およびゴール宣言直線距離記録にフットランчиによるものを新設する提案。当初HGも含めてのものであったが、最終的にPGのみに修正して提案されたが、必要な賛同（有効投票の2/3）が得られず（賛成24、反対14）否承認となった。

■ブルガリアの提案

〈Annexe33a〉：タスクによってリーディングポイントとタイムポイントの比重を変えられるようにする（現在、リーディングウエイトは1000点満点中の162点で固定）提案。しかしながら総会前の部会で、現実にはどのようなタスクであったら比重をどのように配分すれば選手的に納得が得られるか、全く分からないのでベースキャンプ（FAI内にあるチャットシステム）で継続的に協議し、来年の総会に再提案することを取り下げられた。

■2023年世界選手権：Andradas（サンパウロの北約160km）、ブラジル。本戦2023年9月4日～16日（テスト大会2022年9月3日～10日）。参加枠150人。エントリー費480ユーロ（選手）、240ユーロ（役員）

【PGアキュラシー関連】

■PGA部会からの提案

〈Annexe27〉：アキュラシーのルールS7Cを少々改訂する案。

主な改訂点

＊第2章に2.6が追加され「カテゴリー2大会に対しても大会参加資格としてカテゴリー1同様IPPIパラプロ4（あるいは同等の国内ライセンス）所持。トーイング大会では国内トーイングライセンス、あるいはトーイング訓練修了証明書、あるいはトーイングによるFAI公認大会に参加した証明書を所持。強風および無風時のテイクオフ技術を持っていること。」が追加された。
＊3.2.2.3（ファイナルラウンド）項に、ファイナルラウンドはその時点でのランキングの逆順でフライトすることになっているが、万が一そのファイナルラウンドが完了しなかった場合は、逆順でフライトしなかったその直前のラウンドがファイナルラウンドとなることの明確化。

＊3.5（リランチ）項、現在リランチの決定をイベントジャッジが15分遅らせることが出来るとなっているところをチーフジャッジあるいはイベントジャッジとチーフジャッジを追加する。
＊3.5.5（リランチの基となる事項としての外部からの妨害）項に、選手はターゲットを狙わずに、その旨の明確なサインをすることになっているが、ターゲットを避けるほどの高度がなかった場合でも明確なサインはしなければならないことを追加。

＊3.5.6（リランチの基となる事項としてのジャッジの判断）項の異常なコンディションとしてダストデビルによる乱気流を追加。

＊5.1（大会の有効性）項にカテゴリー2大会では最低1ラウンドが成立していなければならないを追加。

＊5.4.2（自動計測装置—パッド）項において、パッドが故障あるいはリセットされていない場合で選手の着地点がパッド上であった場合…との文言に、あるいはパッドを踏む圧力が不十分であった場合を追加。

＊6章（ペナルティ）はカテゴリー2にも適用されるようになった。

＊7.2（プロテスト）項の最終ラウンドのプロテストはコンプレインの結果を伝達されてから1時間以内に提出することとなっていたが、これを最後の2ラウンドに変更。また7章（コンプレインおよびプロテスト）はカテゴリー2にも適用されることとなった。

＊8.3.1（使用可能なハーネス）項、LTF09あるいはEN1651-2018の認証を取得していることとなっていたものを、LTF09あるいはEN1651-2017に改められた。

＊9.5（ジャッジの経験）項のカテゴリー2ジャッジの経験で、これまでは過去2年間のFAI公認大会での経験となっていたところを過去3年間に変更。またターゲットジャッジに関しては過去2年間に国内ジャッジ訓練に参加していることとなっていたのを過去3年間に変更し、かつ過去3年間にターゲットジャッジの経験があることを追加。

＊また、カテゴリー2大会に対しても9.6（各ジャッジおよび記録係の仕事）、9.7（テイクオフディレクターと風速監視係の仕事）、9.8（ジャッジおよび役員に必要な装備）は要求されることとなった。

■2023年世界選手権：Sopot（ソフィアの東約120km）、ブルガリア。本戦2023年10月20日～28日（テスト大会2022年10月27日～30日）。参加枠130人。エントリー費270ユーロ（選手）、100ユーロ（役員）

【その他】

■2021年に予定されている各競技の世界選手権（フランスでのPGXC、北マケドニアでのHGクラス1&5、北マ

ケドニアでのPGアキュラシー）に関して：コロナの影響で、開催が延期となった場合、その時点で今回開催の承認を得た2023年世界選手権は自動的に白紙に戻り、再度立候補をすることとする。

■FAIスポーツメダルを、これまでの功績と、特に第4回PGXCパンアメリカン選手権（ブラジル）を成功裏に開催したフランク・ブラウンとマルコ・オウレリオ・ピネイロに授与する。

■役員選挙（すべての役職に複数候補がいなかったため信任投票となり全員信任された）

会長：Stephane Malbos（フランス 再選）

副会長：Goran Dimiskovski（北マケドニア 再選）

副会長：Igor Erzen（スロベニア 再選）

副会長：Zeljko Ovuka（セルビア 再選）

副会長：Jamie Shelden（米国 再選）

事務局：Andy Cowley（英国 新任）

会計：William Hughes（米国 新任）

HGXC委員長：Jami Shelden（米国 再選）

PGXC委員長：Goran Dimiskovski（北マケドニア 再選）

PGアキュラシー委員長：Martin Jovanoski（北マケドニア 新任）

PGアクロバット委員長：Claudio Cattaneo（スイス 再選）

■次回総会はセルビアのベオグラードで2月3日～6日の日程で開催されることとなった。が、決定後、リモートあるいはハイブリッド（実際の会議とリモートでの参加も可能とする）での開催が出来ないかとの議論が出たが結論に至らず、セルビアと理事会で協議することとなった。

■CIVL (Commission Internationale de Vol Libre 国際ハンググライディング・パラグライディング委員会)

世界の航空スポーツを統括する民間組織、国際航空連盟（FAI）の専門委員会のひとつがCIVLです。年に一度開かれる総会で、ハンググライディング・パラグライディングの主に競技や記録に関する事項を決定します。各国から出席するデレゲート・オルタネート（正副委員）は小委員会にも参加し、それぞれのテーマについて検討しています。

JHFパラグライディング技能証規程の改定

JHFパラグライディング教本改訂版を2020年度末に発行、頒布を開始しています。改訂委員会は検討を積み重ね、たいへん長い期間をかけることとなりましたが、多くの方々のご協力をいただき、発行に至りました。

教本の改訂とともに、JHFパラグライディング技能証規程も改定しました。この技能証規程は1987年3月23日の制定以来、より安全な技能習得のため、機材や技術の進歩に合わせて見直しをし、改定を重ねてきたものです。

2021年3月18日に理事会承認、5月1日に発効する新しい規程はどのような内容なのか、今回改定したPG-A級課程からPG-XC証課程までを見てみましょう。

*印の実技科目は実技検定試験の科目です。

PG-A級技能証：

パラグライディングA級パイロット技能証

A級課程では「単独で安全に指定方向へのフライトができること」を目的に、実技の練習をし、知識を身につけます。

従来はB級課程の実技科目だった機体の傾きの修正、進行方向の修正、操作と機体の動きの時間差が、安全にテイクオフするために必要なこととして、A級実技科目になりました。

実技練習は、講習を受け、単独での成功飛行回数10回以上をめやすとします（飛行時間は特に限定なし）。



【実技】25科目のうち検定試験7科目

●機材

1. パラグライダー
2. ハーネス
3. レスキューパラシュート
4. ヘルメット・服装など
5. 計器・無線機など
6. 中古機材のリスク

●機材の取扱いと準備

7. 機材の確認
8. パラグライダーの広げ方
9. ラインチェック
10. 装備の装着
11. パラグライダーの収納・運び方
12. 機材の点検・保管

●フライトの準備1

13. フライトプラン*

14. 体の準備

15. 心の準備

16. プレフライトチェック*

●ブレイクコードの操作（引き加減と速度の関係）

17. ブレイクコードの操作要領*

●ライズアップ

18. ライズアップ～直線走行～停止

●グランドハンドリング（傾きの修正）

19. 機体の傾きの修正
20. 進行方向の修正
21. 操作と機体の動きの時間差

●テイクオフ（離陸）

22. 安全なテイクオフ1*

23. 安全なテイクオフ2*

●直線飛行

24. 安定した直線飛行*

●ランディング（着陸）1

25. 安全なランディング*

【学科】17科目

●風向と風速

1. 風向・風速とは
2. 風向・風速の目測

●パラグライダーの滑空1

3. 揚力
4. 抗力
5. 空気力・重力・前進力
6. 対気速度と対地速度
7. 失速

●心身の準備1

8. 疲労時は飛ばない
9. 体調が悪いときは飛ばない
10. 不安定な精神状態で飛ばない



11. できるだけリラックス

12. I'M SAFE?

●エリア毎のルール

13. エリア毎のルール

●低高度練習中における危険性

14. 危険を招くのは自分自身

15. 低高度練習中の事故

16. 中古機材のリスク

17. 事故報告

PG-B級技能証：

パラグライディングB級パイロット技能証

B級課程では「単独で左180度旋回と右180度旋回を行う技能、そして指定されたゾーンに着陸する技能を身につけること」を目的に、実技練習をし、知識を吸収して自分のものにします。

グライドパス、偏流修正飛行、横風でのランディングが、従来のNP証課程実技科目からB級課程の実技科目に変更になりました。

実技練習は、講習を受け、単独での成功飛行回数20回以上をめやすとします（飛行時間は特に限定なし）。

【実技】24科目のうち検定試験8科目

●レスキューパラシュート

1. 装着とセッティング
2. シミュレーション

●不時着

3. 山沈の備え
4. 自己確保訓練
5. 連絡訓練（安全確認）
6. 着水の備え

- 高高度フライト
- 7. フライトプラン*
- 8. プレフライトチェック*
- 9. 周囲警戒（警戒すべきポイント）
- 10. トラフィックルール
- リバースライズアップ
- 11. リバースライズアップ
- 高高度のテイクオフ
- 12. 確実に安全なテイクオフ
- グライダーの安定
- 13. 軽いピッチングとローリング*
- 旋回
- 14. 90度旋回
- 15. 180度旋回
- 16. 180度左右連続旋回
- 17. 8の字旋回と高度処理*
- 偏流修正飛行
- 18. 偏流修正飛行（目的地に到達するために）
- 19. 横風でのランディング
- 速度コントロール1
- 20. ブレークコードによる速度コントロール*
- グライドパス
- 21. グライドパス（指定地にランディングするために）
- ランディング2
- 22. 安全なアプローチラインと姿勢*
- 23. 半径30m以内への安全なランディング*
- 24. エリアのランディングルールの理解*
- 【学科】24科目
- 安全規格
- 1. 運用限界
- 機材のメンテナンス
- 2. 各機材のメンテナンス
- フライトルールとマナー
- 3. ルールを守ることの重要性
- 4. 楽しく安全に飛ぶためのマナー
- 5. マナー欠如が招くこと
- パラグライダーの滑空2
- 6. 翼の構造と各部名称
- 7. 迎え角と飛行速度
- 8. 地上での前進力
- 9. 迎え角と滑空比の関係
- パラグライダーの旋回1
- 10. ブレークコードによる旋回
- 11. 体重移動による旋回
- 12. 実際の旋回
- 風
- 13. 風の発生
- 14. 安定した風・不安定な風
- 15. 地形による風の変化



- 16. 局地風
- 17. 気団と前線
- 18. フライトに影響する雲
- 19. ウインドシア
- 航空法と小型無人機等飛行禁止法
- 20. 航空法
- 21. 空港周辺でのフライトに際して
- 高高度練習中における危険性
- 22. 高高度飛行で広がる飛行範囲
- 23. B級課程練習中の事故（高高度）
- 24. ハインリッヒの法則とエラーチェーン

PG-NP技能証：

パラグライディングノービスパイロット技能証

NP証課程では「単独で左360度旋回と右360度旋回を行う技能、穏やかな上昇風によるソアリングを行う技能、そして、指定された地点に着陸する技能を身につけること」を目的に、実技練習をし、知識を身につけます。

ソアリングが実技科目に登場。着陸精度も半径20m以内を求められます。

実技練習は、講習を受け、単独での成功高高度飛行回数60回以上、合計飛行時間10時間以上をめやすとします。

【実技】13科目のうち検定試験6科目＋フライトプラン

- スラローム走行
- 1. スラローム走行
- リッジソアリング
- 2. リッジソアリング
- 360度旋回1
- 3. 360度旋回*
- 4. 360度連続旋回（3回以上 1周15秒前後）
- 場周アプローチ

- 5. 場周アプローチ*
- ランディング3
- 6. 安全な指定地着陸（半径20m以内）*
- 速度コントロール2
- 7. 最小沈下速度での飛行
- 8. 最良滑空速度での飛行
- 9. アクセルの使用
- ピッチングとローリング
- 10. ピッチング（前後15度程度）*
- 11. ローリング（左右30度程度）*
- 緊急時の操作
- 12. リアライザーでの緩旋回
- 13. 両翼端折り（ビッグイヤー）と回復*

【学科】13科目

- 心身の準備2
- 1. 飛行と心理
- 2. 飛行と体
- ポーラーカーブ
- 3. ポーラーカーブ
- 翼変形と回復
- 4. 潰れの種類と回復操作
- パラグライダーが利用できる上昇風
- 5. リッジリフト
- 6. 山際でのウインドグラジェント
- 7. サーマル
- 8. アーベントテルミック（イブニングサーマル）
- 大気不安定度1
- 9. 逆転層
- 危険なコンディション1
- 10. 積乱雲
- 11. 寒冷前線
- 12. 突然の強風
- パラグライダーとハンググライダーの特性
- 13. 飛行特性の違い



PG-P技能証：

パラグライディングパイロット技能証

P証課程では「単独でサーマルによるソアリングを行う技能、緊急降下を行う技能を身につけ、指定された地点に着陸する技能をさらに磨くこと」を目的に、実技練習をし、知識を身につけます。

サーマルソアリングが実技科目となり、サーマルに入る、センタリングなど、サーマルに関する実技科目が従来より増えました。

実技練習は、講習を受け、単独での成功高高度飛行の合計飛行時間30時間以上をめやすとします。また、3ヶ所以上のフライトエリアでの飛行を経験します。

【実技】15科目のうち検定試験6科目＋フライトプラン

●360度旋回2

1. フィギュアエイト＊
2. 深いバンクでの360度連続旋回＊

●サーマルソアリング

3. サーマルに入る＊
4. センタリング
5. 旋回方向と旋回の中心
6. サーマルの発生源とトリガー
7. サーマルの立体像
8. 風上修正
9. ウインドシア（鉛直方向）
10. バリオメーター
- ランディング4
11. 指定地ランディング（半径10m以内）＊
12. 風が強くなった場合のアプローチ
- 潰れからの回復
13. 片翼潰しからの回復＊
- 緊急降下手段1
14. 両翼端折りでの飛行（フルアクセルで降下、ローリング）＊
- ホームエリア以外でのフライト
15. ホームエリア以外でのフライト

【学科】10科目

●天気図利用の基礎

1. 天気図の見方
2. 風の予想
- 危険なコンディション2
3. 不安定な大気
4. 強風を示す雲
- 危険回避
5. 翼変形からの回復
6. 緊急降下手段
- 競技会
7. 大会の種類など



8. 競技種目

- クロスカントリー飛行
- 9. クロスカントリー飛行とは
- 危機管理
- 10. 的確な状況判断

PG-XC技能証：

パラグライディングクロスカントリー技能証

XC証課程では「単独でソアリングを含むクロスカントリー飛行を安全に行い、航空交通の秩序と安全性を保つ技能を習得すること」を目的に、実技練習をし、知識を身につけます。

いよいよ「外界」に飛び出しサーマルなど上昇風を利用してクロスカントリー飛行をするための実技練習が始まります。周到な準備をし、これまで身につけてきた知識を総動員して、安全を第一に飛行計画を練ります。

実技練習は、講習を受け、単独でP証取得後のサーマルによる累計獲得高度を10,000m以上（1フライトにつき1回の獲得高度を累計）とし、飛行計画書に基づく10km以上のクロスカントリー練習飛行を経験します。

【実技】9科目のうち検定試験1科目

●ランディング5

1. 指定地ランディング（半径5m以内）
2. メインランディング場以外へのランディング
3. 傾斜地へのランディング
- ローリング（45度）
4. ローリング（45度）
- 緊急降下手段2
5. スパイラル
6. Bストール

●クロスカントリー練習飛行

7. 飛行コースの下見
8. 往復6km以上のアウト＆リターン（サーマルによる）
9. 10km以上のクロスカントリー練習（サーマルによる）＊

【学科】14科目

●フライトの準備2

1. 機体
2. 装備
3. 携行品

●飛行計画と報告

4. 飛行計画
5. 飛行計画書の作成
6. 飛行報告
7. 土地の所有者への連絡

●クロスカントリー飛行に必要な手続き

8. 法律の知識
- 大気の安定度2
9. エマグラム

●気象情報の利用

10. 高層天気図
11. 情報入手と判断
- 飛行情報の入手と判断

●ノータム等

●コース調査

●安全なクロスカントリー

14. クロスカントリーパイロットの心得

FAI国際技能証（IPPI CARD）

国際航空連盟（FAI）が定める国際的なパイロット技能証がIPPIカードです。FAIに加盟する100以上の国々で通用します。JHFは日本のハンググライディング・パラグライディング統括団体として、IPPIカードを発行する権限を委譲されており、2009年に国際基準に合わせて技能証規程を改定しました。下はIPPIカードとJHF技能証を対照したものです。

IPPI	JHF
Safe Pro Para 1	PG-A級技能証
Safe Pro Para 2	PG-B級技能証
Safe Pro Para 3	PG-NP技能証
Safe Pro Para 4	PG-P技能証
Safe Pro Para 5	PG-XC技能証

FAI国際技能記章

世界共通のFAI記章（バッジ）もあります。ハング・パラグライディングでは国際記章の銅章、銀章、金章、ダイヤモンド章が定められています。

パラグライディングXCリーグ/ハンググライディングフライトコンテスト、HGシリーズ 困難を乗り越え2020年リーグの頂点に立ったのは……

2020年の競技を振り返って その2

パラグライディング (PG) とハンググライディング (HG) の両競技委員会が運営するJHF競技リーグは、1月1日から12月31日までをシーズンとして年間ランキングを決定しています。新型コロナウイルスの感染拡大により国内外の大会が次々と中止や延期に追い込まれる。そんな予想もしなかった事態に直面しながら、困難を乗り越えて首位を勝ち取った2020年チャンピオンたち。今回は前号では順位が確定していなかったリーグの勝者たちの「ひとこと」です。

PG クロスカントリーリーグ

- 1位 中川 喜昭 最長4/8-179.81km
+52.9+50.2+38.2km 計321.17km
2位 二三四藤昭 最長4/3-115.4km
+88.7+34.5km 計238.54km
3位 小林 敦之 最長2/21-68.57km
+68.3+67.8km 計204.68km
4位 中里 勝 最長3/12-58.34km
+42.8km 計101.19km
5位 中野 建司 最長4/3-52.11km
+19.4+19.1km 計90.58km
6位 香田 勉 最長3/12-42.64km
+28.9km 計71.57km
最長飛行 中川 喜昭 4/8-179.81km
茨城県足尾山→福島県伊達郡桑折町



1位/最長飛行
中川 喜昭

■リーグ優勝

昨シーズンはコロナによる混乱のため、飛ぶこと自体が難しい状況であり

ました。2年ぶりのXCリーグ1位ですが、4本のフライトを提出できたのが私だけという結果では、うれしさも程々です。その中で唯一ともいえる成果は5年ぶりにXC距離記録を更新できたことです。こんな時勢であるが故に、季節の営みが同じように巡ってくれて素晴らしいコンディションを整えてくれたことを、一層ありがたく感じます。依然として社会の混乱は続いています。それなりに対応を心得てきた感があります。より多くの参加者を得て今年のXCリーグが盛り上がることを切に願います。

■最長飛行

2020年4月8日、それまでの記録を約11km超える国内最長距離を飛ぶことができました。以前の記録も私が2015年に飛んだものです。そのとき以来、自分自身で記録を更新することを目標としてきて、やっとその願いが叶いました。国内XCフライトにおいては、足尾から北上するコースが最も可能性が高いと信じてチャレンジを続けてきました。足尾の可能性を再び証明することができたことを、とても嬉しく思います。次の目標は国内200kmです。その日が来ることを信じて、これからもチャレンジを続けます。

HG フライトコンテスト

- [ストレートディスタンス クラス1]
1位 田中 猛 4/4 236.8km
2位 砂間 隆司 4/4 148.32km
3位 芳賀 亮太 4/8 132.2km
[ストレートディスタンス クラス5]
1位 松田 隆至 4/8 216.44km

- 2位 宍戸 俊之 4/4 164.84km
[アウト&リターン クラス1]
1位 石坂 繁人 4/11 68.87km
2位 砂間 隆司 4/5 54.56km
3位 田中 元気 12/26 40.84km
[アウト&リターン クラス5]
1位 佐々木則生 3/6 135.48km
2位 松田 隆至 3/6 133.9km
3位 古坂 学俊 8/30 86.66km
[トライアングル クラス1]
1位 石坂 繁人 4/11 108.47km
2位 田中 元気 6/7 43.38km
3位 太田 昇吾 6/20 42.34km
[トライアングル クラス5]
1位 松田 隆至 3/25 119.14km
2位 山口 裕之 4/11 114.44km
3位 松田 隆至 2/28 111.23km
[デュレーション クラス1]
1位 中西 亮太 8/9 7:20:11
2位 田中 猛 4/4 5:59:49
3位 太田 昇吾 8/1 5:05:18



ストレートディスタンス
クラス1 1位
田中 猛

4月4日に236.8km飛び、前年に続いて2020年も表彰されました。それもストレートディスタンスで国内記録を更新できるとは自分にとっても驚きです。このフライトの後、直ぐにコロナ禍でハイシーズン中に飛べなくなったのが、本当に残念です。

236km、6時間と飛翔していると、素晴らしい長編映画のように、始まりから終わりに至る綺麗なパノラマ景色、文字に表せないくらいの色々な手

2020年パラグライディングXCリーグを振り返って

2020年のXCリーグは、コロナの影響により緊急事態宣言が発令されたことが大きく響き、例年におけるクロカンのゴールデンピリオドであるゴールデンウィーク前後において全くフライトが出来ないこととなり、低調なシーズンとなってしまった。フライトを申請したパイロットは8人、フライト本数はたったの19本であった。そのうち

2本が、寒風山と鳩吹山からのもので、それ以外はクロカンメッカの足尾山からのものであった。

低調な中でもクロカンフリークのの中川喜昭選手が、リーグチャンピオンになるとともに、4月8日に179.8kmを飛び、自己の持つパラグライダーによる国内における直線距離記録168.6kmを塗り替えたことは、大変喜ばしいこ

パラグライディング競技委員長 岡 芳樹

とである。

2021年シーズンもすでにスタートしており、昨年より多くのパイロットが参加し、多くのフライトが申請されていて楽しみではある。しかし、コロナ禍で、怪我をすると自身のみならず第三者にも大きな影響が及ぶことを念頭に、安全により一層の注意をしてクロカンを楽しんでいただければと思う。

に汗握るストーリーがありました。

今年も去年と同様な長編映画が見られるように頑張っ飛びたいと思います。「大佐山から比叡山にお参りする」と目標を掲げて結果が出せたので、今年も200km越えを出せるように春の空を満喫し、何かのクラスで表彰されるように頑張りたいです。



**ストレートディスタンス／
トライアングル
クラス5 1位
松田 隆至**

■ストレートディスタンス

2016年と2020年のときと同じコースを蔵王町まで飛んで216kmでした。足尾山からストレートディスタンスをするとき、このルートではこれ以上の距離は難しいので、今後は山形県に飛んでいける条件のときを狙って記録を伸ばしたいです。目指せ、蔵王越え。

■トライアングル

筑波山－市貝町－那珂市のルートで119kmを飛べました。日本ではトライアングル150kmの記録はまだできていないようです。150kmを目標にフライトしています。

今年も2部門で1位を取ることができました。フライトをサポートしてくれた皆様、ありがとうございました。



**アウト&リターン／
トライアングル
クラス1 1位
石坂 繁人**

足尾エリアでの1本のフライトで、アウト&リターンとトライアングルの1位を獲得することができました。

アウト&リターンとトライアングルはクロスカントリーとは違った魅力がありますので、簡単に紹介させていただきます。まず、夕方までたくさんの時間・距離を飛んだのに「回収が不要」

という点は大きな魅力です。また、その場の地形や気象条件に応じてターンポイントを柔軟に決めていく点にも奥深さがあります。さらに、いつも飛んでいるエリアを遠くから眺め、そこを最終ゴールとして飛ぶことにも新鮮味があります。必ずどこかに向かい風のレグがあることも、良いトレーニングになります。

エリアと条件によってはパラの皆さんも十分楽しめると思うので、ぜひトライしてみてください！



**アウト&リターン
クラス5 1位
佐々木 則生**

この日は足尾から西方面のトライアングルをやるつもりだったが、飛んで見ると見事なコンバージェンスの雲列が益子付近から北に伸びていた。松田さんと2人で雲に沿って北上していくと、2000m前後の高度を維持したまま快調に矢板市上空に到着。このあたりで雲列が崩れて雲の配置が飛び飛びになっており、コンバージェンスラインの終わりっぽい雰囲気。高原山に行ってみたかったが、前方（北）を見ると、那須岳付近から雲が東の平野側に吹き下ろしているのが見えたので、そろそろ潮時かと思いリターン開始。

帰路は雲がだいぶ消えてきてしまっていたが、コンバージェンスはまだ機能しており順調に帰着できた。

良いコンディションをうまく使えて気持ちのいいフライトだった。



**デュレーション
クラス1 1位
中西 亮太**

8月9日に和歌山県御坊で7時間20分のフライトをすることができました。

変態活動が流行り出した頃、自分も挑戦したいと思いつつ、なかなか機会がありませんでした。そんな中、前日に御坊で変活できそうな予報。その時は正直変活する気はありませんでしたが、リッジライダーズみんなに後押しされて挑戦し記録を出すことができたので良かったです。

始めのうち2～3時間は体感時間が長く、やっぱりやめようかと思いましたが、4時間以降からは変なスイッチが入り、いつまでも飛べそうでした。約3kmしか動いていませんが、それでも7時間飛ぶと色んな体験ができたので楽しかったです。

技量が未熟でも根気さえあれば狙える部門だと思うので、学生にも挑戦して欲しいと思います。

HG シリーズ

[クラス5]

1位	板垣 直樹	茨 城	118.2
2位	塩野 正光	栃 木	91.9
3位	岡田 伸弘	静 岡	85.9
4位	山本 剛	神奈川	81.1
5位	櫻井 大朗	栃 木	74.8
6位	穴戸 俊之	茨 城	70.8



**1位
板垣 直樹**

Class 5 リーグのランキングはほかのリーグとはやや異なりCIVL Rankingをそのまま日本のリーグのランキングとして反映させている。

2020年というより過去2年間の成績を評価されたことになるが、リーグのトップ、1位になったことは光栄です。

Class 5 の競技は参加選手が少なく、性能が高い機体で単独で飛ぶ力がより

2020年ハンググライディングフライトコンテストを振り返って ハンググライディング競技委員長 牟田園 明

2017年から本格的にスタートしたフライトコンテストも年ごとに申請数も増え盛り上がりを見せていたが、昨年度は申請が半減してしまった。それもこれも、春のクロカンシーズンと全国緊急事態宣言が重なってしまったためであり、いかんともしがたいと言わざるを得ない。

そんな状況のなか、昨年最大のトピックスは、何と言っても直線距離飛

行の国内記録が田中氏によって更新されたことに尽きる。前回の記録が氏家氏によって樹立されたのが2005年なので、15年ぶり、且つ距離も213kmから236kmに大幅更新されたことは本当に素晴らしい。

またしても岡山県大佐山が記録エリアとなったことで、関東のフライヤーには次なる記録更新に向けて是非とも奮起していただきたい。

今後に向けては、ビッグフライトだけでなく日常のフライトを気軽に申請できる環境を整えていきたいと考えている。具体的には、PGクロカンリーグを参考にして、リーグ制の導入を検討している。2021年もさらなるフライトコンテストの盛り上げに期待したい。

～皆さんからの申請をお待ちしています。一緒にフライトコンテストを盛り上げていきましょう～

試される競技になることが多く、私自身は、どんなタスクでもどんな条件下でも一人で前を飛び、サーマルを見つけ、より早く上げ、常に先頭を飛ぶことを意識して飛んだ結果が認められたと思います。嬉しい。

今後も、サーマルサーチや、より良いコース選択、ソアリング技術とグライダー技術だけでなく、基本的なフライト技術の向上を常に求め、努力したいと思う。

自分のペースで参加できる XCリーグ／フライトコンテスト

大会が開かれるのは週末だけれど平日しか仕事を休めない。そんな人もパラグライディングXCリーグやハンググライディングフライトコンテストなら、ご自分のペースで参加できます。年度途中で大丈夫、ぜひご参加を！

第8回JHFフォトコンテスト 作品募集中！

第8回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテストにぜひご応募ください！

JHFは、ハンググライディング・パラグライディングの素晴らしさ、楽しさ、そして身近なスカイスポーツであることを伝えられる「写真」が、普及と振興のために役立つと考え、フォトコンテストを開催しています。



第7回最優秀賞 江端邦昭さん撮影「夜明けの空」

印画紙でのご応募だけでなく、データでのご応募（10MB以内、jpg形式、メール送信可、ただし応募専用アドレスまで）も受け付けています。

賞金は、最優秀賞（1作品）5万円、優秀賞（1作品）3万円、入選（数点）各1万円です。

また、応募作品の中から季節感のある優れた作品14点を選び2022年JHFカレンダーを制作の予定です。

応募締切は9月6日（月）受付まで（郵送の場合は当日消印有効）。

自分の力で空を滑空できる醍醐味を感じられるような作品、空の楽しさを伝えてくれる作品を期待します。詳しくはJHFウェブサイト（3月26日トピックス）をご覧ください。多くのご応募をお待ちしています。

学連ニュース

2021年度日本学生フライヤー連盟（JSFF）理事長を務めさせていただく立教大学の齋藤達也です。学生間やホームエリアの足尾では、不二子と呼ばれています。学生フライヤーの増加と楽しく活動できるように務めてまいります。よろしくお願いいたします。

●学連総会の開催

3月14日にJSFF総会が開催されました。総会では、全国の役員がオンラインで繋がり、1年間の活動報告や新

役員承認を行いました。また、諸問題の解決や新年度の活動指針についても議論しました。

2021年度は「新歓活動」を主軸に活動していきたいと考えています。理由としては、去年の「惨敗」とも呼ぶべき新歓活動の失敗があげられます。昨年度は、コロナ禍により今まで通りの新歓活動を行うことができませんでした。そのため、多くのサークルは、ZOOM等によるリモートでの説明会やSNS等を利用したオンライン上での

新歓を主軸に行いました。

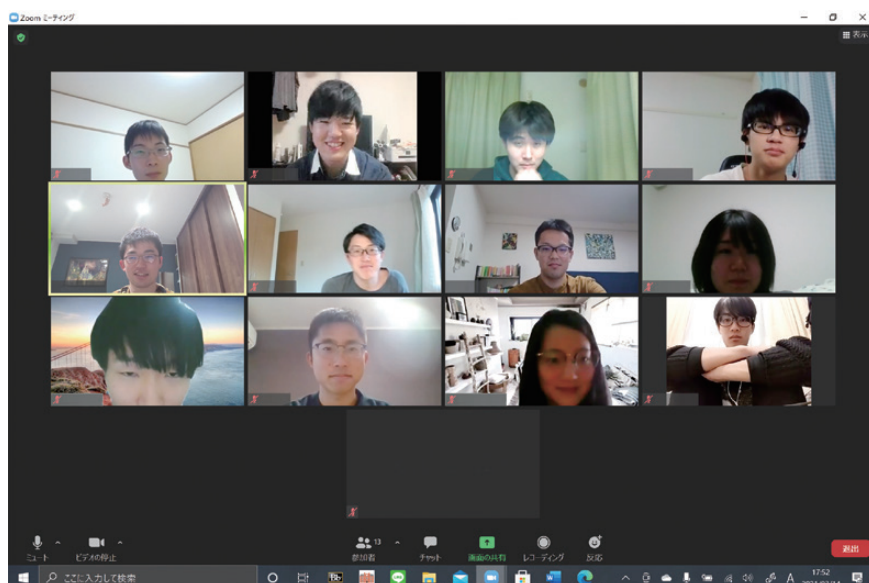
こうしたオンラインでの活動に対する慣れ・不慣れにより、サークルごとに新歓の成果に大きなばらつきが出る結果となりました。これを受け、今回の総会では、まず今年度も続くであろうオンライン上での新歓活動の成果をより実りあるものにすべく、昨年度サークルごとに得たオンライン上での新歓ノウハウを共有しました。そのうえで学連の活動方針として、新歓時の課題として前々から上げられていた、上級生の負担が大きいという問題を解決することを目指し活動いたします。

●大会について

昨年は、コロナ禍の影響で全学生大会が中止となりました。開催は出来ませんでしたが、準備をしていただいた関係者の皆様には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

今年度は、JSFF本来の目的である学生間交流やフライトに対するモチベーションアップのためにも、大会を開催したいと考えております。

今年度も新型コロナウイルスに左右される年になるため、コロナ禍に対応した大会を企画・運営することができるよう精進してまいります。



総会はオンライン開催。全国の役員が繋がって議論した。

JHFからのお知らせ

■聖火リレールート周辺は飛行禁止

東京2020オリンピック・パラリンピック聖火リレーが3月25日に福島県をスタートし、全国47都道府県を巡る予定です。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、沿道での密集回避等の措置がとられており、また、この間、聖火リレーのルートとその周囲の上空では、小型無人機等の飛行が禁止されています。

この「小型無人機等」にはドローンのほかに、特定航空用機器すなわちハンググライダーおよびパラグライダー（原動機を有するものを含む）が含まれます。ご協力をお願いします。

聖火リレーのスケジュール、小型無人機等については下記を参照してください。

→ オリンピック聖火リレールート情報（東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会）

<https://tokyo2020.org/ja/torch/route/>

→ 国土交通省・無人航空機（ドローン・ラジコン機等）の飛行ルール

https://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk10_000003.html

→ ドローン等の安全な飛行に向けて！

<https://www.mlit.go.jp/common/001369805.pdf>

■PG教本改訂版の頒布を開始

2021年3月に『JHFパラグライディング教本改訂版』を発行。1冊3,000円（送料込み）で頒布を開始しました。まとめてのご注文では送料負担が減るので、一度に10冊以上ご注文の場合は、1冊2,800円です。

購入方法は、JHFウェブサイトから注文書をダウンロード、代金をお振込のうえ、メールかFAXでJHF事務局にご注文ください。

入門者はもちろんのこと、既にフライトを楽しんでいる方にもぜひ読んでいただきたい内容です。

■チェック5タグを頒布中

JHFではハンググライディング・パラグライディングの事故撲滅を目指して「空の事故ゼロキャンペーン」を実

上空利用可能デジタル無線機使用のお勧め

2022年にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もすくなくクリヤーで聞き取りやすくなっています。現在の対応機種はSTANDARD製のVX-291S、VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-DPR30、IC-DPR4、KENWOOD製のTPZ-D510です。

JHF賛助会員（JHFウェブサイト）にバナーを掲載）からも購入するこ

とができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を15台保有し、フライヤー会員に貸し出しをしています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧のうえお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。お忘れのないようお願いします。

施。その一環として「チェック5タグ」を作り、2018年にフライヤー会員の皆さんにお届けしました（新規会員の方には登録時にお届け）。

ハーネスなどに装着し、テイクオフ前にタグを読み上げて、プレフライトチェック（セルフチェックならびにクロスチェック）をしっかりと行ったことを確認していただくためのものです。

今年もレッグベルト締め忘れによる重大事故が起きてしまいました。「自分は大丈夫、ベルトを締め忘れるはずがない」と思い込むことなく、タグを読み上げての飛行前確認をぜひ習慣にしてください。

このタグをご希望の方は、各地のJHF登録スクールでお求めください。JHF事務局から直接お送りすることもできます。1セット300円（送料込み）。メールかFAXでご連絡をお願いします。

■氏名・住所変更のお知らせを

毎号JHFレポートが宛先不明で事務局に戻って来ます。お名前やご住所に変更があったら、早目に事務局にメールかFAXで下記をお知らせください。

- ・フライヤー会員番号
- ・お名前
- ・新しいご住所
- ・連絡先電話番号
- ・メールアドレス

もしもお仲間に転居された方がいたら「JHFに連絡した？」と声をかけていただけると、たいへん助かります。

■転居のお知らせや各種申し込みお問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人

日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail:info@jhfh.hangpara.or.jp

<https://jhfh.hangpara.or.jp/>

*このJHFレポートには、賛助会員からのお知らせを同封しています。また、神奈川県・静岡県在住の方には県連盟からのお知らせも同封しています。

被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱UFJ銀行（銀行コード0005）

巣鴨支店（店番号770）

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

JHFレポート233号

発行日：2021年（令和3年）4月20日

発行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編集：JHF事務局

印刷：株式会社サンライズ